今年の夏も、音楽とともに、たっぷりAOIを愉しもう！

AOIのオープン・デイ2025

入場無料

8/2（土） 10:00〜17:00

ロビー・コンサート

①10:15〜11:00（10:00 開場）
金管アンサンブル
②12:45〜13:30（12:30 開場）
クラリネット・アンサンブル
ロビー（8階）
出演 常葉大学短期大学部音楽科
申込不要
＊混雑の際には入場制限をする場合があります。

リコーダー・ワークショップ

要申込 多数抽選

①11:00〜12:00　②13:30〜14:30
リハーサル室1（7階）
講師
笛のおねえさんharuka＊（リコーダー）ほか
定員 各25名
対象 小学校3年生以上（大人のみの参加も可）
＊参加票の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます（7月18日（金）締切）。
＊リコーダーは各自でご持参ください。

だれでも10分間ピアニスト

10:00〜14:30
共通ロビー（1階）
申込不要
＊おひとり10分間、演奏できます。
＊混雑の際にはお待ちいただく場合があります。

8/7（木） 10:00〜17:00

パイプオルガン、やってるよ♪

11:00開演（10:30開場）※13:00 終演予定　ホール（8階）
定員 各600名（自由席）　申込不要
＊どなたでもご入場いただけます。託児サービスはありません。
＊定員により、入場を制限させていただく場合がございます。
＊客席内への出入は曲間でお願いいたします。
時間・出演
11:00〜11:30、12:00〜12:30 栗田麻子（オルガン）
11:30〜12:00、12:30〜13:00 尾崎麻衣子（オルガン）

わくわく！いろんな楽器にふれてみよう♪

10:00〜14:30
体験できる楽器：トロンボーン、クラリネット、チェンバロ ほか
講堂・リハーサル室1（7階）　申込不要
＊混雑の際にはお待ちいただく場合や入場制限をする場合があります。
＊途中、楽器ごとに休憩をいただきます。
＊各楽器の体験時間等、その他詳細はHPをご確認ください。

AOI探検ツアー

要申込・多数抽選

舞台袖や楽器庫などを、静岡音楽館AOIのスタッフがご案内します。
①14:30〜16:00　②15:30〜17:00
集合場所 リハーサル室2（7階）
定員 各25名
＊参加票の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます（7月18日（金）締切）。

静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

音のふしぎをさぐってみよう

10:30〜13:00 ※12:30受付終了
講堂前（7階）
講師 静岡科学館る・く・る
申込不要
＊混雑の際にはお待ちいただく場合があります。
定員 各回9名程度 ＊順次ご案内します。

※申込が必要なイベントについて、詳細はHPをご覧ください。

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、2025年度をもって退会をご希望の方は、2026年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員（2025年5月末現在）50音順

- ●（株）アオイテレテック
- ●（株）SBSプロモーション
- ●かわした歯科クリニック
- ●（株）ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡
- ●（株）タミヤ
- ●（株）メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2025-26
主　催　静岡音楽館AOI 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団
特別協賛　せいしん 静清信用金庫
協　賛　アイワホールディングス
studio FORUM HOUSE & SHOP DESIGN

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

※価格は税込です。
※都合により内容を変更する場合があります。
※お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更はお受けできません。
※演奏中のご入場、および他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
※未就学児はご入場いただけません。（一部公演を除く）
※託児サービスはございません。

開場時の諸注意

※8階ホールへのエレベーターの運行は、開場時間以降となります。
※開場時は1階エレベーター前でお待ちの方を優先してご案内いたします。
※地下からご来場のお客様も、一旦1階にて列にお並びください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左　静岡中央郵便局合同建物内

＊当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

CONCERT HALL SHIZUOKA 静岡音楽館AOI

月曜日休館（ただし祝日開館、翌平日休館）9:00〜21:30開館
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9
お問合せ
054-251-2200
静岡音楽館AOI　検索

AOI通信

夏号

静岡音楽館倶楽部情報誌
JUN. 2025 No.118

特集 静岡音楽館AOI 開館30周年
静岡音楽館AOI芸術監督メッセージ
～30周年に向けて～

インタビュー **福川伸陽**（ホルン）
子どものためのコンサート
古楽器木管八重奏で楽しむ《フィガロの結婚》

インタビュー **務川慧悟**（ピアノ）
務川慧悟 ピアノ・リサイタル ～オール・ラヴェル・プログラム～

インタビュー **井出壮志朗**（テノール）
静岡音楽館AOI×東京文化会館 協力事業
井出壮志朗 バリトン・リサイタル

速報！第29回「静岡の名手たち」オーディション合格者決定！

AOIのオープン・デイ2025

特集 静岡音楽館AOI 開館30周年

静岡音楽館AOIは2025年5月9日に開館30周年を迎えました。
これまで当館30年の歩みを支えていただいた全ての皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。

静岡音楽館AOI芸術監督メッセージ
～30周年に向けて～

野平一郎（作曲家、静岡音楽館AOI芸術監督）

静岡音楽館AOIに関わるようになってから、早いもので30年。開館からの10年間にわたる企画会議委員、そしてその後の20年間の芸術監督職。30年と言えば、私は今年で72歳になりますから、音楽家としての人生の半分をここで過ごした、と言っても過言ではないでしょう。この間、東京にあるどのホールよりも、また日本のどのホールよりも、AOIに通った回数の方がとても多かったのです。実際に舞台に立つだけではなく、企画やさまざまな会議などを含めて音楽のことを真剣に考える主要な場となりました。音楽家として育ててもらったホールであり、その意味で「ここで過ごした」と書いたのです。そして開館30周年を機に芸術監督職を辞任することといたしました。それと共に私と20年間の長きにわたって一緒に主催事業のプログラムを考えてくださった企画会議委員の方々も交代し、これからは新しい芸術監督の元、若い世代に引き継いでいただいて、新生静岡音楽館となることを期待しています。

この30年の間、特に芸術監督を引き受けてきたこの20年の間に公共の音楽ホールが置かれている状況は徐々に変革しつつありました。指定管理者制度が導入され、文化庁や国が推進する地域の中核を担う音楽堂に補助金や助成金を出す支援事業が強化されました。イギリスに倣いアーツ・カウンシル制度の日本版が導入され、PD（プログラムディレクター）やPO（プログラムオフィサー）の権限が大幅に強化されました。こうした状況は、歓迎すべき側面も多々ありますが、もちろんホールの事業内容にプラスだけの影響をもたらすだけではありませんでした。その一つが物事を数値化して判断していく考え方で、特に芸術の分野においては集客数にその数値が求められるのです。しかし（エンターテインメントではない）芸術の価値と観客数を数値化することは、決してすべてが合致するものではないことは言うまでもありません。答えのないこの種の議論を続けるつもりは毛頭ありませんが、静岡音楽館が開館して1年目の会議の際に、静岡出身の著名な詩人であった大岡信氏が、市職員のその種の何気ない発言に激怒し、結局それを発端にして企画会議委員を辞任されてしまった残念なことが思い起こされます。

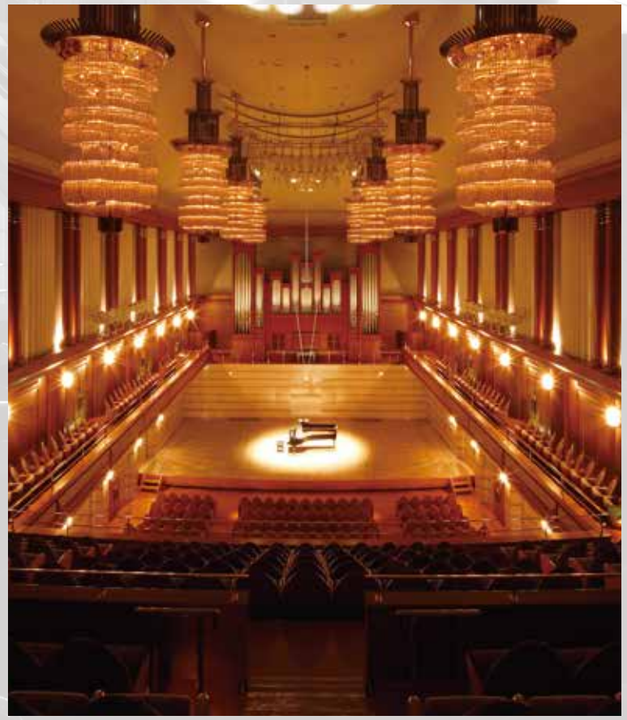
私は芸術監督就任当初から、中規模のホールである静岡音楽館においても、企画によってはより多くの聴衆を獲得できる可能性のある主催事業もある一方で、芸術的に非常に重要と判断される事業であっても静岡音楽館のキャパシティーとしては無理な、より小規模のホールを必要とするものがあることを感じていました。前者においては、静岡市民文化会館大ホールや清水文化会館マリナートを利用して実施してきました。しかしより小規模で適切なホールはついに見つかりませんでした。また当初はJazzのコンサートをジャズクラブやそれ専門のライブハウス空間でと考えることもありましたが、これも計画だけに終わりました。今後、若い人たちがこうした静岡音楽館をめぐるさまざまな状況を考慮しながら、どのように人を惹きつける企画を立てていってくれるのかを楽しみに心待ちにしています。

私と現在の企画会議委員にとってのラストイヤーの企画の特徴について若干述べておきます。今までは、なるべく幅広い世代の音楽家たちを招聘するようにしていましたが、この30年目のシーズンにおいては特に「若い人」に焦点を当てようと考えました。若いという言い方は少々乱暴で抽象的ですが、主に20～30代で既に日本の音楽界の中核で活躍されている人々のことです。まずシーズン開幕に予定されているR.シュトラウスのオペラ《ナクソス島のアリアドネ》の公演に出演する多くの歌手は、まだ若い歌手たちです。シーズン中にお招きする器楽のソリストたちも、これに劣らず20～30代の精鋭たちです。ロン＝ティボーやエリザベートなど国際コンクールで素晴らしい成績を残された務川慧悟さん、ヴィエニャフスキ・コンクールの覇者前田妃奈さん、大阪国際室内楽コンクールで頭角を表したザイール・サクソフォン・カルテット、また東京文化会館との協力事業に出演してくださる方々、バリトンの井出壮志朗さん、ヴァイオリンの福田麻子さん、リコーダーの桐畑奈央さん、すべてが20代から30代前半で日本、ないし世界で活躍する今が旬の演奏家たちです。もちろん、詳しくはシーズンのプログラムを見ていただくと分かる通り、その道のベテランとこうした若手を、バランス良く配置したつもりです。特に芝祐靖さんの偉業を回顧する怜楽舎のコンサート、そしてこれもラストイヤーとなる結成30年のAOI・レジデンス・クヮルテット、またその演奏曲目にご注目ください。

企画をするにあたって、いつも理想としていたホールがあります。それは私が12年住んでいたパリのシテ・ドゥラ・ムジーク（現在フィルハーモニー）のプログラミングでした。近隣には音楽学校や楽器博物館などがあり、こうした芸術のためのエリアを整備する仕事をフランスは何年もかかって行ってきました。プログラムを参考とするも何も、相手は1年中毎日複数のホールや講義室に世界からオーケストラやソリストを招いているわけで、規模からして天と地の開きがあります。毎週1つの特色あるタイトルを決め、それは都市だったり、作曲家だったり、時代であったり、より抽象的な主題もありました。そこには実現してみたいアイディアが詰まっていました。その中で1年の間に2～3週は西洋音楽以外に捧げていることも興味深かったのです。静岡でも、日本の伝統音楽や民俗芸能以外にも、ぜひアラブやアフリカ、アジア各地の音楽を必ず相当数やろうと決心していました。西洋芸術音楽のためのホールとしてスタートした静岡音楽館ですが、こうしてJazzや邦楽等々を含め多様性を持たせることに心を砕きました。それは初代の芸術監督であった間宮芳生先生のプログラムに既に明白でした。どうしたら聴衆の好奇心をくすぐることができるか、そしてどうしたら本当の音楽好きを満足させることができるのか、この2つをいつも考えてきましたが、結局は自分自身がどうやって音楽好きとなり、コンサートに通ったのか、という経験が一つの原点でした。CDだったら、聴きたい作品の中に1曲未知の曲が入っていても聴いてしまうでしょうが、その未知の作品のために家から音楽館まで移動してコンサートを鑑賞するのはとても大変なことでしょう。就任当時は異分野の音楽をまとめてセット券で売ることを試みたりもして、いかにして今まで聞いたことがない音楽にも興味を持ってもらうように努力したりしました。オーケストラ好きの人がピアノのリサイタルに、ベートーヴェンが好きな人がメシアンや新曲のコンサートに、そして西洋音楽しか聴かなかった人がアジアの宮廷や民衆の音楽にどうやったら興味を持ってもらえるのか。

私は藝大の作曲科で定年まで教えていましたが、入学してきた学生の一人が私のクラスに来て、「私は静岡育ちで、音楽館の先生のプログラムを聴いて育ち、今日ここにいます」と言うのを聞いてびっくりすると同時に、こうした人たちもいるので気を抜けないという気持ちを新たにしたことを覚えています。本当に良いと判断した音楽を厳選して、きちんと信頼する音楽家の手でコンサートを作っていかなくてはならない、そんな気持ちを彼の何気ない言葉が新たにしてくれました。海外からご招待した音楽家は異口同音にこのホールの音響や、演奏しやすさについて絶賛してくれます。こうしたホールを持っていることは財産ですし、何ごとも30年継続するというのは大変なことです。でもこの辺りで空気を入れ替えることも必要だと判断しました。今シーズンの最後に、未来の子どもたちへ贈るコンサートをします。自分が音楽を志した最初に二重線を引いて完成したピアノ曲（15歳）と、今回音楽館からの委嘱作品（72歳）を両極端に置いて、その間に未来へ向けたいくつかの作品を弾くコンサートにするつもりです。

© YOKO SHIMAZAKI



インタビュー

福川伸陽（ホルン）

7月5日（土）に出演いただく、日本を代表するホルン奏者の福川伸陽さんにお話を伺いました。このコンサートでは、とっても珍しい「古楽器」（ピリオド楽器）を使用し、モーツァルトの名作などをお届けします。

過去にもAOIの主催公演にご出演いただいたことがある福川さん。当館にはどのような印象がありますか？

静岡音楽館AOIは、とても美しい響きを持つホールだと感じています。特に*pp*から*ff*までの音がクリアに届き、繊細な息遣いまで伝わる空間は、室内楽に最適です。演奏するたびに、このホールならではの音楽の対話を楽しませてもらっています。

今回は全編「古楽器」を使用してのコンサートとなりますが、古楽器と、現代のオーケストラや吹奏楽で使われている楽器との違いについて、その魅力と合わせて、ご紹介をお願いいたします。

古楽器は、現代のオーケストラや吹奏楽で使われる楽器に比べて構造がシンプルで、素朴な響きを持ちます。そのぶん息づかいやニュアンスがダイレクトに伝わり、人の心の機微を繊細に表現しやすいのが魅力です。また、音が主張しすぎず自然に溶け合うため、室内楽にも最適です。さらに、時には荒々しく刺激的な音も生み出せるため、表現の幅がとても広い楽器でもあります。古楽器ならではの個性が、音楽の原風景を鮮やかに浮かび上がらせてくれます。

木管アンサンブルを初めて見る子どもたちにとっては、「なんで木管なのに金属の楽器が入っているの？」と不思議に思うことがあるかもしれません。改めて、木管アンサンブルに金管のホルンが加わる理由を教えていただけますでしょうか。また、演奏する際、金管アンサンブルでの演奏と何か違う点はありますか。

ホルンは金属製ですが、木管アンサンブルにおいて独特の役割を担っています。柔らかくあたたかな音色は木管楽器と自然に溶け合い、音の広がりや奥行きを生み出してくれます。金管アンサンブルではホルンの雄大な表現力を前面に出すことが多いのですが、木管アンサンブルでは、他の楽器と調和する繊細な表現力が求められます。そのバランス感覚や音色の変化も、ホルン奏者としての大きな醍醐味です。

今回は子どもたちに向けて、モーツァルトの《フィガロの結婚》を選曲していただきました。子どもたちに伝えたい、モーツァルトのオペラの魅力や《フィガロの結婚》の魅力はどのようなところでしょうか。

モーツァルトの音楽には、どんな瞬間にも喜びやあたたかさが流れていて、《フィガロの結婚》もまさに常に幸せに満ちた音に囲まれた作品です。人間の感情をユーモアと優しさで描きながら、音楽が自然に物語を運んでいくその魔法のような力を、子どもたちにも感じてもらえたら嬉しいです。

最後に公演に向けてメッセージをお願いいたします。

楽器の音や響きには、言葉では表せない感動や驚きがたくさん詰まっています。今回は、少し不思議で面白い古楽器たちが登場します。親子で一緒に、音楽の世界を旅するような気持ちで楽しんでもらえたら嬉しいです。きっと、心に残る“初めての音”に出会えるはずです！

ありがとうございました！

このコンサートは3歳児からご入場いただけます。ぜひ親子で、ご家族で、またお友だちと、古楽器のやさしい響きとおはなしをたっぷりとお楽しみください♪

子どものためのコンサート

古楽器木管八重奏で楽しむ フィガロの結婚

7/5 土

15:00開演（14:30開場）
指定席 ¥2,500（静岡音楽館倶楽部会員¥2,250）
親子券 ¥3,000

※このコンサートは小学生を主な対象としています。
※3歳児からご入場いただけます（チケットが必要です）

22歳以下 ¥1,000

出　演
レ・ヴァン・ロマンティーク・トウキョウ
三宮正満、荒井豪（オーボエ）
満江菜穂子、渋谷圭祐（クラリネット）
向後崇雄、村上由紀子（ファゴット）
福川伸陽、伴野涼介（ホルン）
宮城嶋遥加（おはなし）

曲　目
W.A.モーツルト：
歌劇《フィガロの結婚》K.492 より
（台本：新井鷗子）ほか

© Yuji Ueno

インタビュー

務川慧悟（ピアノ）

7月18日（金）に出演いただく、ピアニストの務川慧悟さんにお話を伺いました。年間プログラム発表時から既に全国のファンから注目され続けています。

静岡音楽館AOIに初出演される務川慧悟さんに、オール・ラヴェル・プログラムを演奏いただきます。ファン待望のコンサートであること間違いありません。今回のプログラムの聴きどころを教えてください。

ラヴェルはその62年の生涯で、ピアノ曲としては"たった"2時間分の作品しか残していません（充分多いのでは？　とも思われるかもしれませんが、他作曲家との比較から考えれば少ないと言ってよいでしょう）。そしてそれは、彼の完璧主義の性格に起因していると思われますが、逆に言えば、彼のピアノ曲はどれを取っても、駄作というのは決して無いわけです。
そんな中から今回は、彼の印象主義語法の到達点《夜のガスパール》と、これまた彼のもう一つの重要な側面である"懐古主義"の傑作《クープランの墓》を中心に、作曲年代順に作品を並べ、ラヴェルの作風の変化を順に追える構成を組み立ててみました。

務川さんはパリを拠点に活動され、2022年にはCD「ラヴェル：ピアノ作品全集」をリリースされました。務川さんにとってラヴェルはどんな存在なのでしょうか？

僕にとっては、"気張る"というよりもあくまで自然体で演奏できる感覚を持てる作品が、フランス音楽の中に多いのですが、その中でもラヴェルは特別。明確な理由は言葉にできないけれど、彼の性格・作品の性質と僕個人との相性というものがあるのでしょう、どの作品も初めて勉強した時からスッと心に入って来てくれ、様々な重要な場面で僕の心の側にあり、また僕を支えてもくれた。そんな音楽たちです。

昨年2024年に日本ソムリエ協会主催の「ワインエキスパート」に合格されました。おめでとうございます！ ピアニスト活動と並行しながらの勉強はとても大変だったのではないでしょうか。合格されるまでの生活についてお聞かせいただけますか？

ワインエキスパート試験は一次・二次の2段階に分かれており、一次の筆記試験は夏に。夏はソロのリサイタルツアーもあった中、ピアノ以外の全ての隙間時間をワインの勉強に充てる日々となりました（家のあらゆる壁に、大量の付箋紙やワインの地図などを貼りながら）。二次のテイスティング試験は秋で、幸いその前の2週間のスケジュールを完全に空けていました。それで、その2週間は毎日8時間ほどワインテイスティングの練習をする日々（まるでピアノ国際コンクール出場中の日々のようだ）。初めての分野の練習は日々手探りで、めげそうになることもあったけれど、「コツコツ練習すれば上達する」という、ピアノでは幼い頃に何度も経験したあの素晴らしい感覚を、久々に思い出しました。

今後、音楽とワインを通してやりたいこと、今後の展望などがありましたらお聞かせいただけますか？

既に実現中ではあるけれど、楽曲とワインとを（本格的に）ペアリングしたコンサート企画など。ある分野を、ある別分野と組み合わせて考えることで、その双方の解像度が上がる、ということがあると思うけれど、例えばワインと音楽とでそれを行うことによって、それを体験するお客様に何らかの新たな感覚を感じていただくことができるのではないか、と思っています。

最後に、ご来場のお客様へメッセージをお願いいたします。

ラヴェル生誕150周年の今年は、彼の音楽にどっぷりと浸かるまたとない機会。彼の、まるで繊細な彫刻作品のように精密で硬質な、だけれどそこから人情味の溢れ出る、素晴らしきピアノ作品に浸る2時間、是非とも聴きにいらして下さい。

務川慧悟 ピアノ・リサイタル ～オール・ラヴェル・プログラム～

7/18 金

22歳以下 ¥1,000

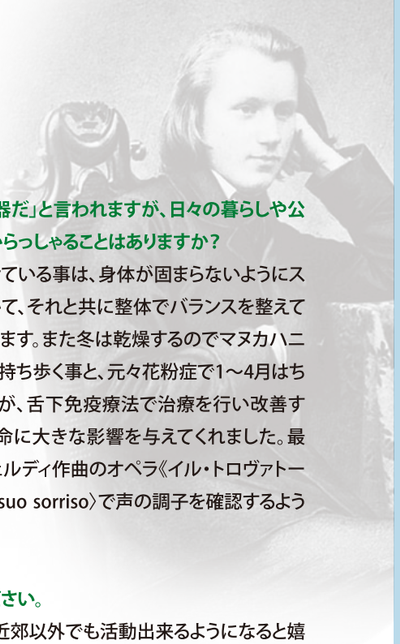
完売御礼

19:00開演（18:30開場）
指定席 ¥4,000（静岡音楽館倶楽部会員¥3,600）
※未就学児はご入場いただけません。

出　演
務川慧悟（ピアノ）

曲　目
M.ラヴェル：古風なメヌエット
亡き王女のためのパヴァーヌ
水の戯れ
夜のガスパール
高雅で感傷的なワルツ
クープランの墓

インタビュー 井出壮志朗（テノール）



9月6日（土）にAOI初出演となる、テノール歌手　井出壮志朗さんにインタビューしました。飛ぶ鳥落とす勢いの井出さんにとって初めてのドイツリートコンサート。必聴です。

記念すべき静岡音楽館AOI初出演のコンサートでは、ドイツの歌曲（ドイツリート）をお贈りします。ドイツリートの魅力や聴きどころを教えてください。

僕は今までドイツリートを歌う機会が無く、今回のコンサートが人生で初めてのドイツリートコンサートになります。今回、選曲するに当たっても様々な方に御意見を頂きながら、出演する機会の多いオペラに近い劇性のある曲を選びました。コンサートへの準備を進めて行く中でドイツリートに感じる事の一つとして、一曲の中に凝縮された作曲家の技術がとにかく凄い。言葉と音楽の繋がりで描写風景が目の前に広がる魅力があります。

どういうきっかけで歌を始めましたか？　またプロを意識し始めたエピソードなどを教えていただけますでしょうか。

音楽をやりたいと思った最初のきっかけは、幼少期に叔父であるミュージカル歌手の岡幸二郎の舞台を観た事です。そしてミュージカルをやりたいという思いがあり、まず歌を勉強しようと思い音楽大学に行きました。在学中、クラシック音楽を勉強するために、動画などでPiero CappuccilliやEttore Bastianini等の歌手の演奏を聴き「こんな音楽があるのか！」と衝撃を受けてクラシックの道にハマっていき、更に堀内康夫さんの演奏を聴いた時にこうなりたいと強く思った事がプロを志す事に繋がったと思います。

歌手の方はよく「身体が楽器だ」と言われますが、日々の暮らしや公演の際に特に気を付けていらっしゃることはありますか？

日々活動する中で気をつけている事は、身体が固まらないようにストレッチをするようにしていて、それと共に整体でバランスを整えて貰う事を定期的に行っています。また冬は乾燥するのでマヌカハニーを入れたハーブティーを持ち歩く事と、元々花粉症で1～4月はちゃんと歌えなかったのですが、舌下免疫療法で治療を行い改善する事が出来たのは歌手生命に大きな影響を与えてくれました。最近は本番前には必ずG.ヴェルディ作曲のオペラ《イル・トロヴァトーレ》のアリア、〈Il balen del suo sorriso〉で声の調子を確認するようにしています。

今後の展望をお聞かせください。

今後の目標としては、東京近郊以外でも活動出来るようになると嬉しいです。目指すは47都道府県で歌う事です！　ですが、まずは日本にある馬蹄型のホール、例えばびわ湖ホールや横須賀芸術劇場などで歌える事が目標です。僕自身本年で36歳とまだバリトンとしては若いので、これから《マクベス》や《ドン・カルロ》といった作品も歌いたいですし、歌曲でも歌いたい曲が沢山あるので、自身の成長も楽しみにその時その時のベストを尽くしていきたいなと思っています。

ご来場のお客様へメッセージをお願いいたします。

自身初の静岡音楽館AOIホールでの演奏、そして初のドイツリートコンサートになります。マーラーやヴォルフの力強さ、ブラームスの緻密な音楽。勉強してもし尽くせない音楽を、私の美しい声とオペラで培われた表現で、どの様に演奏されるのかを楽しみにいらして頂けると嬉しいです。是非ホールまで聴きに来て下さい！

静岡音楽館AOI×東京文化会館 協力事業

井出壮志朗
バリトン・リサイタル

9/6（土） 22歳以下 ¥1,000

15:00開演（14:30開場）
指定席 ¥3,000（静岡音楽館倶楽部会員¥2,700）
※未就学児はご入場いただけません。

出　演
井出壮志朗（バリトン）
谷本喜基（ピアノ）

曲　目
G.マーラー：歌曲集《子どもの不思議な角笛》より
〈番兵の夜の歌〉〈ラインの伝説〉
〈不幸なときの慰め〉
H.ヴォルフ：ゲーテの詩による歌曲集 より
〈ねずみを捕る男〉
〈騎士クルトの嫁探しの旅〉
メーリケの詩による歌曲集 より
〈めぐりあい〉〈ヴァイラの歌〉
J.ブラームス：美しきマゲローネのロマンス op.33

速報！

第29回「静岡の名手たち」オーディション合格者決定！

5/3（土・祝）打楽器、声楽部門　　5/4（日・祝）弦楽器、アンサンブル部門

去る5月3、4日、第29回「静岡の名手たち」オーディションが行われ、審査の結果、9名7組が合格しました。
合格者のみなさんは9月13日（土）第29回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサートに出演します。
新しい才能が羽ばたく瞬間をお見逃しなく！

［打楽器部門］

田中健太
（スネアドラム）

［声楽部門］

伊藤美央
（ソプラノ）

長谷川暉
（バリトン）

［弦楽器部門］

増井茜
（ヴァイオリン）

間瀬光一
（コントラバス）

山田佳歩
（ヴァイオリン）
ロダン賞

［アンサンブル部門］

黒川千聡
（フルート）

塩川歌織
（クラリネット）

諏訪部太成
（アルト・サクソフォン）

各部門50音順

昨年の実施の様子

第29回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート

9/13（土）18:00 開演（17:30 開場）※19:40終演予定
自由席￥1,800（会員￥1,620、22歳以下￥1,000）
［Pコード：285-298］
※未就学児はご入場いただけません。
チケット好評発売中！！

「静岡の名手たち」オーディションとは？

1995年の静岡音楽館AOIの開館時より、静岡にゆかりのある新進音楽家の発掘・育成のため、毎年オーディションを開催しています。
オーディション合格者は「静岡の名手たち」として、静岡音楽館AOI主催のコンサートなどに出演いただきます。
これまでに延べ325名が合格し、それぞれの分野で活躍しています。
また、オーディションでは「ロダン賞」を選考し、受賞者の演奏機会の創出を担っています。
※ロダン賞：静岡県立美術館ロダン館でのコンサートの出演者として、静岡音楽館AOIから推薦します。

〈これまでの主な合格者〉
嶋田慶子（第1回合格／NHK交響楽団ヴァイオリン奏者）
松谷卓（第1回合格／ピアニスト、作曲家として朝日放送テレビ番組「大改造！！劇的ビフォーアフター」テーマ曲を作曲・演奏）
大木麻理（第13回合格／ミューザ川崎シンフォニーホール・ホールオルガニスト）
今田篤（第13、15回合格／ピアニスト、第10回浜松国際ピアノコンクール第4位）
戸村愛美（第21回合格／Lumie Saxophone Quartet アルトサクソフォン奏者）
ほか

過去の合格者の主な活躍は
こちらからもご覧いただけます。▶